

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

昨年 2018 年のドル/円相場は、当初想定していたように 2017 年と同様のレンジ相場が継続しました。

年間の値幅は 10 円を下回り過去最少、2017～2018 年の 2 年間を通して値幅は 14 円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、本年年明けの 1 月 3 日に 108 円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドル短期に 4 円以上の下落という動きが引き起こされました。

その後、1 月の米 FOMC では声明文から追加利上げのバイアスが削除され利上げ継続という政策スタンスが大きく変わったことにより米国株式およびドルは持ち直しました。

また、米経済指標は好調を維持するものも多く、良好なファンダメンタルズのなか金利が低位安定

ドル/円相場のトレード戦略

するという適温相場が再び始まったとの期待が強まりました。

さらに6月のFOMCで米国が利下げ方向へ政策変更したことが明確となり、実際に7月のFOMCでは10年ぶりの利下げが実施され、9月のFOMCでも追加緩和が実施されたことでドルの上値は重い動きとなりました。

ただし、10月のFOMCで利下げ打ち止めが示唆されたこと、米中通商交渉での部分剛毅への期待が高まったことなどから、年末に向けてドルの底堅い動きが期待されるようになり、ドルは109円台を回復してきています。

もともと、110円水準では、利食いのドル売り圧力が強まるものと考えられ、簡単に上抜けはできそうもありません。当面105円～110円のレンジを続けそうで、年間値幅を考えると、昨年をさらに下回り、過去最低の変動幅となる可能性が高まっています。

■短期展望

先週は、109円前半でスタートした後、米中通商協議に関して協議決裂の場合の関税引き上げの可能性に言及した当局者発言などからドルの上値の重い動きが続き、一時108円24銭まで下落しました。しかし、108円台では本邦実需筋などのドル買いも根強く、108円後半まで値を戻して週を越えました。

今週も、108円台を中心とした方向感のない動きの継続が予想されます。

市場は、米中通商交渉の行方をにらみながら右往左往する動きが続くものと思われ、交渉結果がはっきりとするまでは明確な方向性が出ることは期待しにくい状況といえます。

したがって、今週は108円から109円半ばでの狭いレンジの継続を予想します。